

## 第2章 国内・海外の取組に関する情報収集

### (1) ユネスコ創造都市ネットワーク UCCN の動向

2004年にユネスコ UNESCO（国連教育科学文化機関）が、文化産業の創造的社会的経済的潜在力を解放し、文化的多様性を実現する目的で創造都市のグローバルアライアンスを呼びかけて10年余、ユネスコ創造都市ネットワーク UCCN は着実に広がっている。UCCN は参加を希望する都市が文学、音楽、デザイン、メディアアート、映画、ガストロノミー、クラフト・フォークアートの7つの文化産業群の中から1分野を選択し、各国のユネスコ委員会および国内専門機関による推薦を得て、パリのユネスコ文化局に申請し、審査を経て認定される。認定の条件としては、文化産業の集積や人材養成機関の充実などのほかに、創造都市の実現に向けた常設の推進団体の活動や、公共セクターと民間セクター、市民セクターとの連携、途上国への貢献を重視していることが特徴的である。さらに、2015年9月にニューヨークの国連本部で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会の実現など、持続可能な開発のための諸目標）を達成するキーパートナーの一つとして UCCN は位置づけられており、今後ますます UCCN の存在意義は高まっていくであろう。

※ UCCN のリーフレット（英）とブックレット（英仏）が作成されており、それぞれ下記ページから閲覧できる。

<https://en.unesco.org/creative-cities/sites/creative-cities/files/E%20UCCN%20leaflet.pdf>

<https://fr.unesco.org/creative-cities/sites/creative-cities/files/creative%20cities%20for%20web.pdf>

### 1) 第10回 UCCN 年次総会－エステルズンド会議 2016年9月14～16日

#### <概要>

10回目という節目を迎えた UCCN 年次総会は、スウェーデン中部にあるエステルズンド市（人口約44,000人、ガストロノミー分野で加盟）にて開催された。加盟116都市（54か国）のうち100以上の都市から250名以上が参加した。また、22都市からは市長が参加し、市長会議も行われた。

会議の冒頭、スウェーデンの文化大臣 Alice Bah Kuhnke は「UCCN は重要な会議の場であり、未来に向けて世界中の人々をつなぐものである。我々は未来への挑戦に向けて、我々のもつすべての創造力、共感、革新を活用する必要がある。ここで議論された新たなアイデアは、それぞれの都市で実行されるであろう」と述べ、年次総会の意義について語った。

持続可能な都市の発展のために不可欠な文化と創造性をさらに進展させるよう、この10回目の年次総会においてアイデアや計画、知識、経験の交流と共有が促進されたと考えられる。加えて、エステルズンドでの会議は、都市と農村地域との関係性にも視点を向けさせるものであったと言える。エステルズンド市長の AnnSofie Andersson は「この会議は、都市と農村地域が相互に結びついていること、そしてこのつながりが世界中のあらゆる地域での持続可能な発展という将来を展望するよい機会であったと思う」と述べている。年次総会の中でも「2030アジェンダ」についての言及があり、持続可能な発展のために都市と農村との望ましい関係性を考える上で、エステルズンド市で開催された意義は非常に大きいと考えられる。

#### <市長会議> 参加24都市（うち市長は22市、2市は代理）

ファブリアーノ（イタリア）、ポパヤン（コロンビア）、プーケット（タイ）、プカロンガン（インドネシア）、カトビツェ（ポーランド）、鶴岡（日本）、ハイデルブルグ（ドイツ）、フロリアノポリス（ブラジル）、パルマ（イタリア）、全州（韓国）、エステルズンド（スウェーデン）、篠山（日本）、ナッソー（バハマ）、アル・アサ（サウジアラビア）、モントリオール（カナダ）、カウナス（リトアニア）、ラシュト（イラン）、サントス（ブラジル）、リンツ（オーストリア）、利川（韓国）、ダブリン（アイルランド）、ノリッチ（イギリス）、統営（韓国）、ローマ（イタリア）

## &lt;議論の要点&gt;

- ・新規加盟都市の募集について

2017年1月頃から新たな加盟都市の募集を開始、10月頃に認定都市を発表する予定

※ユネスコとしては今後2年ごとに加盟都市を増やしていく方針

- ・2018年次総会の開催都市について

2016年10月にオンライン投票システムにより実施予定

※立候補しているのは蘇州（中国）、ファブリアーノ（イタリア）、クラクフ・カトヴィツェ（ともにポーランド、共同開催）

- ・新たなステアリンググループ（SG）の正式認定

SGとはユネスコ事務局とUCCNメンバーとの円滑なコミュニケーションを促進する役割等を担うもので、第8回年次総会（中国・成都）から設けられた。任期は2年間で、次の更新は2018年次総会にて行われる。

分野	正コーディネーター	副コーディネーター
クラフト&フォークアート	ファブリアーノ（イタリア）*	利川（韓国）*
デザイン	シンセン（中国）	デトロイト（アメリカ）*
ガストロノミー	エステルズンド（スウェーデン）	エンセナーダ（メキシコ）*
音楽	ゲント（ベルギー）	マンハイム（ドイツ）*
映画	ゴールウェイ（アイルランド）	シドニー（オーストラリア）*
メディアアート	ダカール（セネガル）*	アンギャン・レ・バン（フランス）
文学	クラクフ（ポーランド）	ダブリン（アイルランド）*

\*新たにSGとなった都市

- ・メンバーシップモニタリングレポートについて

UCCN加盟都市がそれぞれどのような活動を行い、どのようにネットワークに貢献しているのかを相互評価するシステムとして、第9回年次総会（2015年金沢）で採択された。初めてのモニタリングは2004～2006年に認定されたエディンバラ（技術的問題のため）以外の8都市（\*1）からレポートが提出され、ユネスコ事務局とSGによる評価の後、年次総会で全体評価が行われた。そして2007～2009年に認定された10都市（\*2）が2016年11月末までにレポートを提出した。このようにUCCN加盟はゴールではなくスタートであり、認定後に国際的な活動をいかに展開していくかがますます重視されるようになっていく。そして、2回連続で評価が低いとUCCNの認定を取り消すことも将来的にはあり得るとの言及があった。

（\*1）サンタフェ（アメリカ）、ポパヤン（コロンビア）、ブエノスアイレス（アルゼンチン）、アスワン（エジプト）、ベルリン（ドイツ）、セビリア（スペイン）、モントリオール（カナダ）、ポローニャ（イタリア）

（\*2）リヨン（フランス）、グラスゴー（イギリス）、メルボルン（オーストラリア）、神戸（日本）、名古屋（日本）、シンセン（中国）、アイオワシティ（アメリカ）、金沢（日本）、ゲント（ベルギー）、ブラッドフォード（イギリス）

## &lt;特記事項①&gt;

年次総会の開催に先立って、9月11日～14日ミッド・スウェーデン大学においてVECカンファレンスが行われた。VECとはValuing and Evaluating Creativity for Sustainable Regional Development（持続可能な地域発展のための創造性の尊重と評価）の頭文字をとったもので、持続可能な発展のための文化政策や文化産業の評価に関する研究発表や、創造都市としての実践報告など、計21セッション69報告があった。そもそもこのカンファレンスが開催されたのは、昨年金沢での年次総会の際に連携イベントとして、国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットUNU-IAS、OUIK主催の国際シンポジウム「石川—金沢 生物

文化多様性圏」が開催されたことに端を発する。ユネスコと生物文化多様性事務局の担当者や金沢大学副学長なども加わって議論が展開されたことの意義を認識したエステルズド市が、実践と研究の両面から UCCN を深化させる必要性を感じたからである。

UNU-IAS, OUIK の研究チーム 5 名（永井三岐子 [OUIK 事務局長]、佐々木雅幸 [同志社大学特別客員教授]、敷田麻実 [北陸先端科学技術大学院大学教授]、内田奈央芳美 [埼玉大学准教授]、飯田義彦 [OUIK リサーチアソシエイト]）は、VEC カンファレンスに 1 つのセッションを設けて研究発表と議論を行った。金沢市をフィールドに、生物文化多様性と持続可能な発展との関係性を明らかにしようとする研究は「創造都市・金沢」を世界に印象づける好機であったと言えるであろう。また、UCCN 加盟都市が増え相互交流のための時間が確保しにくくなっている状況のもと、VEC カンファレンスのようなプログラムも組み合わせることで、創造都市政策担当者のみならず研究者レベルでの交流も促進され、ネットワークの深化に貢献できると考えられる。このようなカンファレンスの継続が望まれよう。

#### <特記事項②>

年次総会のプログラムには、オプションとして文化プログラムが多彩に組み込まれており、市民ボランティアの活躍が顕著であった。たとえば、まち歩きツアーでは市民が伝統的な衣装をまとって歴史スポットを案内するなど、エステルズド市の魅力を世界各地から訪れた参加者へ伝えようとする熱意が感じられた。また、“Artisan Food” の認定制度を行政が設けており、職人によってつくられた味わい深く高品質なチーズやソーセージ、ジャムなどを提供し、生産者が説明するなど直接交流する機会が多く設けられていた。多くの市民が年次総会開催に協力しているのは、UCCN に加盟していることの意義と誇りを市民一人ひとりが認識している証左であろうし、交流を通じて文化多様性を大切にするという UCCN のミッションを具現化していると感じられる機会であった。

#### <年次総会宣言>

第 10 回 UCCN 年次総会宣言として、以下の事項が採択された。

スウェーデン・エステルズドで 2016 年 9 月 14 日～ 16 日に開催された「第 10 回 UCCN 年次総会」の参加者である私たちは、文化と創造性は必須の必要不可欠な原動力であり、特に都市環境の中で持続可能な開発の実行者であることを再確認する。

持続可能な都市開発のための戦略的な要因として創造性を認識し、現在の UCCN メンバー、54 ヶ国 116 都市が、共通の目標に向けて共に活動している：地域レベルで創造性と文化産業を彼らの開発計画の中心に置き、そして国際レベルで積極的に協力する。

持続可能な開発のための 2030 アジェンダ実施の枠組みの中で、「杭州宣言」（2015 年 12 月持続可能な都市のための文化における国際会議で採択）を構築し、第 3 回ハビタット会議で採択される。私たちは下記の方法で新たな都市アジェンダを統合するために私たちの貢献を繰り返す：

1. 人間中心の都市：居住性の強化、コミュニティとのつながりを可能にし、都市環境を形成するため文化を通じた人間性のある都市
2. 持続可能な都市経済：貧困軽減に取組み、都市の人間性回復と文化的資産を強化することにより、経済変化を管理する
3. ヒューマンスケール、コンパクトな混合都市：都市開発の中で文化と創造性を促進し、再生と再利用を適用
4. 包括的な多文化都市：不平等の削減とコミュニティへの参加を強化するため、協力した相互関係を推進すること

により、文化的多様性を認識する

5. 平和で寛容な社会：平和と文化間の対話、都市の暴力に対抗することを促進するため、遺産と文化の多様性を構築
6. 持続可能なグリーンで弾力のある都市：遺環境問題のため革新的で文化に基づいた解決策を遺産と伝統知識へ統合
7. 包括的な公共空間：社会一体性を強化し、良くデザインされた質の高い公共空間のアクセスを確実にするため、遺産、文化的・創造的活動を活用する
8. 強化された農村ー都市連携：小さい居住、風景の文化価値への敬意を促進し、都市内の協力を強化する
9. 改善された都市ガバナンス：一般参加型のメカニズム、能力育成の強化、都市開発における文化の影響と役割を評価する指標の改善

私たちは国連開発目標の達成に向けて、文化を取組、政策、プロジェクトへ統合するために貢献し、ユネスコとの緊密なパートナーシップを継続する。

以上

## 2) 第10回 UCCN 年次総会後の動向

2016年9月下旬に開始されたオンライン投票によって、第12回 UCCN 年次総会は2018年6月にポーランドのクラクフ市（文学）とカトヴィツェ市（音楽）との共同開催になることが決定した。テーマを「クリエイティブ・クロスロード」とし、分野横断的な協働によって2030アジェンダの具現化に向けた議論の実施をめざしている。

なお、第11回 UCCN 年次総会は2017年6月29日～7月2日フランスのアンギャン・レ・バン市（メディアアート）において開催される。

## 3) 2017年 UCCN 加盟申請の概要

2017年2月15日にユネスコのホームページ上で新たな加盟申請のスケジュールおよび要件等が発表された。

<2017公募スケジュール>

第1段階 申請募集

2月15日 募集開始

6月16日 ユネスコへの申請書の提出期限

第2段階 評価

9月22日 内外協議評価過程の期日

第3段階 結果通知

10月31日 ユネスコ Web サイト上での新たな認定都市の公表

前回までと大きく異なるポイントは、UCCN の地理的アンバランスを緩和し、アフリカ地域の候補都市のために特定の協力体制が提案されたことである。理由は、現時点で UCCN に加盟している54カ国の地理的分布をみると、大半がグローバル・ノースからであり、グローバル・サウスからの加盟が少なく、特にアフリカ地域のギャップは顕著だからである（ヨーロッパ24カ国48都市、アフリカ4カ国5都市、アジア13カ国35都市、オセアニア2カ国4都市、北米3カ国10都市、中南米8カ国14都市）。

そこでユネスコは UCCN の持続性を確実にするために、アフリカ地域\*1の加盟都市を優先的に増やそうと協力体制の構築を呼びかけた。アフリカ地域の候補都市は協力を得たいメンバー都市（UCCN 既加盟都市）を2017

年 3 月 3 日までにユネスコへ連絡することになっている。協力を求められたメンバー都市は支援を積極的に行うことが要請されており、これもネットワークへの貢献の一つとして見なされる。

地理的アンバランスの緩和のための取り組みは今後、アラブ諸国、ラテン・アメリカ、西インド諸島へも拡がっていく予定である。

申請の要件は前回（2015 年度）とほぼ同じであるが、都市の大きさによる制限は設けられていない（前回は当初、人口 10 万人以上の都市のみ申請可能としたため議論が起こり、申請期間中に制限が外された）。しかし「現在は」と明記しているため、今後再び都市の大きさによる制限が設けられるかもしれない。その他の要件としては従来どおり、① 7 つの創造分野（クラフト&フォークアート、デザイン、映画、食文化、文学、メディアアート、音楽）から 1 つを選択すること、② 同一国から複数の都市が申請する場合は最大 3 都市、かつ少なくとも 2 つ以上の異なる創造分野であること、となっている。また、これまで申請したものの 2 回連続で加盟できなかった都市は、申請を 1 回見送らないといけない（3 回連続の申請は不可）。

\*1 アフリカ地域は下記の 54 カ国である。なお、ユネスコの定義している地理的区分は以下のサイトを参照すること

<http://www.unesco.org/new/en/unesco/worldwide/regions-and-countries>

Algeria / Angola / Benin / Botswana / Burkina Faso / Burundi / Cameroon / Cabo Verde / Central African Republic / Chad / Comoros / Congo / Côte d'Ivoire / Democratic Republic of the Congo / Djibouti / Egypt / Equatorial Guinea / Eritrea / Ethiopia / Gabon / Gambia / Ghana / Guinea / Guinea-Bissau / Kenya / Lesotho / Liberia / Libya / Madagascar / Malawi / Mali / Mauritania / Mauritius / Morocco / Mozambique / Namibia / Niger / Nigeria / Rwanda / Sao Tome and Principe / Senegal / Seychelles / Sierra Leone / Somalia / South Africa / South Sudan / Sudan / Swaziland / Togo / Tunisia / Uganda / United Republic of Tanzania / Zambia / Zimbabwe

## (2) 東アジア文化都市 2016 の動向

東アジア文化都市事業は、日本・中国・韓国の 3 か国から文化による発展をめざす都市を毎年 1 都市ずつ選定し、各都市が行う多様な文化プログラムを通して交流を深めるものである。目的は、東アジア域内の相互理解・連帯感を高めるとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力を強化することにある。事業開始の契機となったのは、2011 年に奈良市で開催された第 3 回日中韓文化大臣会合における日本からの提案であり、中国と韓国の了承を得て 2014 年から開始された。

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
日本	横浜市	新潟市	奈良市	京都市
中国	泉州市	青島市	寧波市	長沙市
韓国	光州広域市	清州市	濟州特別自治道	大邱広域市

3 年目となる東アジア文化都市 2016 は、奈良市（日本）、寧波市（中国）、濟州特別自治道（韓国）が選ばれ、多彩な文化事業を通じた活発な交流が行われた。事業開始の契機となった文化大臣会合の開催地である奈良市は、約 1300 年前に日本という国の制度が整えられた地である。また東アジア各国の文化を迎え入れたシルクロードの終着点でもあり、歴史的・文化的に特別な意味を持つ都市であることをふまえ、当該事業に積極的に取り組んだ。